

3. 11 あの時、私は……

どんな些細な^{サイ}ことでも、あの時のことを自分の言葉で伝えていきたい。そして、今考えていることも。

東日本大震災から2年がたちました。2年前私たちは小学校6年生でした。高倉小学校では大掃除を行おうとしていました。他の小学校も同じだと思いますが、あと少しで卒業をむかえる時に私たちはいました。先生や友達と思い出を語り合ったり、卒業式で歌う歌を口ずさんだりしてあんなに大きい地震がくるとは思ってもいませんでした。いつもどおり掃除に取り組もうとしたその瞬間外から「ゴォー」という音がしたその直後激しいゆれに私たちは襲われました。今まで体験したことのない長く激しいゆれに私たちはおどろきと怖さでいっぱいでした。机の下にもぐったものの机まで激しく動き自分の体といっしょになってたおれそうになりましたが先生が「大丈夫。」といて助けられました。ゆれている間はガラスや花びんが次々に割れる音を耳にしました。ロッカーの中に入っているたくまの本や物もゆかに積み重なるようにして落ちてきました。本当に怖かったし、とても長いゆれでした。死んでしまうのではないかと思い、さらに怖くなり不安になりました。ゆれがいったんおさまった後みんなで机をくっつけてはげまし合い心配し合いました。

友達と分かちあうことで怖さや不安が少し消え、そのとたんに涙があふれ出しました。その涙は「怖い」、「不安」の意味もありますが6年間一緒にすごしてきた仲間の顔が見れたこと、声がきけたことが安心感につなげたのがなあと思います。

その後母がむかえに来て家にかえるとげんかんはいろいろな破片がありとても危なく中もかべや天井もこわれていておどろきました。その日は車の中で夜をすごしましたが、とても長く長い夜と感じました。車の中のテレビでは他県のえいごうも流れていて、ある町は火事になり、一部の町が火の海になっているのを見ました。とても怖かったです。電気・ガス・水道がとまり、

とても辛い生活でした。これを通じて電気や水などのありがたさを感じました。

このように内陸部でもひどい被害を受けました。しかし、沿岸部ではこれよりひどい津波の被害を受けていることを知り、驚きました。震災ではたくさんの方が悲しく怖い辛い思いをしたと思います。この思い、そしてこの東日本大震災を決して忘れてはいけません。亡くなった方、行方不明者もたくさんいます。私たちは命があるので亡くなった方の分まで生きなくてはならないと思います。この残された命を無駄にしてはいけません。このことを胸にしっかりしまっておいてほしいと思います。皆さんへ。

復興にはまだ「まだ」時間がかかると思います。でも日本中の人たちが被災地に温かい協力をしてきていることを知り、感謝でいっぱいになりました。日本だけでなく世界の国々からも被災地に来て、がれき処理などの復興のお手伝いをしていることをニュースで知り、とても心にひびきました。その他にも芸能人の方が、炊き出しのお手伝いや被災者を助けましてくる活動をしてきていることにとても感謝でいっぱいです。本当にうれしい、ありがとうございます。

私も何か役に立てることを自分で探して出来ることから少しずつ、実行していきたいと思います。世界のいろいろな人が協力していることを忘れずこれからも生きていきたいと思っています。

2

年

2

組

阿部涼可